



高花平だより

2018. 3. 6
第 22 号

四日市市立高花平小学校

厳しかった寒さもようやく和らぎ、そこかしこに春を感じる季節となりました。校舎の廊下には、桜や菜の花、ツクシ、チョウなどで華やかに春を表現し、そのなかに「卒業おめでとう」の文字が躍る掲示物が貼られています。3月3日（土）には「6年生を送る会」が行われ、7日（水）には祝膳会、それが終わると卒業式の練習が始まります。学校はいよいよ卒業モードに入りました。



感動をありがとう！～6年生を送る会～

3月3日（土）に「6年生を送る会」を行いました。オープニングでは、1年生手作りのメダルをかけた6年生が、一人一人スポットライトを浴びながら紹介され、入場しました。その後、1～5年生が感謝の気持ちをこめて発表を行いました。

1年生は、お世話になった1年間で振り返って、教えてもらった“牛乳パックの開き方”“ホウキや雑巾の使い方”“大なわ跳び”を実演し、「きらきらぼし」を楽器・英語・手話という3つの方法で演じました。

2年生は、6年生との思い出を振り返り、音楽の時間に歌った「メッセージ」という曲のせて、「ありがとう」を7か国の言葉で伝えました。**3年生**は、今まで練習した縄跳びをしながら登場。

「6年生のみなさんありがとう」というメッセージを込めて「パフ」という曲の替え歌を歌い、3年生で初めて習ったリコーダーで演奏しました。**4年生**はリズム感よく「恋ダンス」を踊り、送る会用にアレンジした替え歌「卒業を迎える日に」をしっとりした歌声で合唱しました。**5年生**は、「伝説の島へ・旅立ちのとき」をきびきびした振付と心にしみ入るハーモニーで合唱しました。

学年発表の合間には、「高花平小と同じ年に誕生した遊園地は？」といった「高花平小クイズ」や、長なわ跳びや綱引きで在校生が6年生に挑戦する「6年生に挑戦」を行い、番外編として、先生チームと6年生とが綱引き対決を行って場を盛り上げました。最後に、お返しとして**6年生**が、さすが6年生と思わせる「打上花火」を合奏し、約2時間の「送る会」を終えました。6年生と在校生が一体となって笑い、楽しみ、感動した素晴らしい「送る会」となりました。



どの学年もレベルの高い内容の発表でした。また、発表学年がステージに立つと自然に静かになるなど、鑑賞態度も見事でした。また、なによりも「送る会」を計画・準備し、運営した5年生の態度が立派でした。5年生は練習の時から緊張感を持って取り組んでいました。本番も、真剣な眼差しと張りのある声で会の進行を行い、楽しい中にも引き締まった「送る会」を演出していました。

二分の一成人式 ～4年生～

2月13日（火）、4年生が「二分の一成人式」を行い、「将来の夢」について発表しました。二十歳（成人）の折り返し点である10歳で行う「二分の一成人式」です。4年生なりに将来の夢をしっかりと考えていて感心しました。大勢の友達や保護者の前で話をすることは大変緊張したことでしょう。発表を終えた子どもたちは、どの子もほっとした表情とともに満足げな表情をみせていました。こういう緊張する場面をくぐらせることは、子どもたちの成長にとってとても大切なことだと思います。子どもたちにとっては、自分を見つめなおし、これからの夢や目標を自覚する機会となり、参観にみえた保護者の方にとってもわが子を見直すよい機会となったのではないのでしょうか。